

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	しずおかけんりつみしまきたこうとうがっこう				②所在都道府県	静岡県
26～30	① 学校名	静岡県立三島北高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	平成25年度2月現在 1年生294名、2年生295名 3年生256名 全校生徒844名	
普通科	280名	280名	280名		840名		
⑥研究開発構想名	国際的視野から地域課題を解決できるグローバルな人材の育成						
⑦研究開発の概要	地域課題であり、世界的課題でもある「安全な水の確保」をテーマにした研究を通じ、大学・企業・海外高校等との連携の下、グローバルな課題に対応できる人材育成プログラムを開発する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域課題であり世界的課題でもある「安全な水の確保」をテーマに大学・企業と連携して開発したプログラムによって、社会課題をグローバルな視点から解決できる人材を育成する。 <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校では、英語のコミュニケーション能力の育成や、将来の国際的活動の動機づけとなる諸事業に力を注いできたものの、グローバル社会で最も必要とされる国際的視野からの課題解決能力、批判的思考、教科横断的な専門家や知識・技能等を体系的に身に付けさせるための手立てが不十分であった。 今回の事業を通じ、生徒は問題基盤学習のノウハウに基づき、専門家との連携や海外でのフィールドワークを通じ、自ら社会課題を解決していくことにより、上記の資質・能力を身に付けることができる。また活動を通じてグローバルな思考の必要性や国際的な活動への関心、自らがグローバル社会で活動する意欲をもつことが期待される。 <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> 開発したプログラムの概要については、リーフレットで頒布するほか、詳細については、学校ウェブサイト（日本語・英語）に掲載する。 大学、企業、海外高校、県、地元市町等と連携して、研究報告会を開催する。 					
	⑧-2課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会を構築するため、発展途上国を中心に人間が生活するための安全な「水」の確保が今、世界で最も重要な課題となっている。本校の所在する三島市は長年にわたり行政・企業・市民団体が協働の下、この問題に取り組んできた。課題研究では双方の調査研究を通じ、安全な「水」の確保のための具体的方策についてグローバルな視点から提案をする。 <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>①実施方法</p> <p>(ア) 生徒は、問題基盤型学習（下記註）の手法に基づき、専門家との協議（SNS等を利用した情報交換を含む）や国内外のフィールドワーク、海外学生とのディスカッション（直接的な交流に加え、ICTを通じたテレビディスカッション）を通じ、課題について研究する。</p> <p>(イ) 研究成果については、大学、企業、海外高校、県、地元市町等と連携して、研究報告の機会を設ける。</p> <p>(ウ) 生徒の課題研究に先立ち、専門家と連携したシラバスと指導プログラムの作</p>					

		<p>成、課題研究についての教材開発、評価手法の開発、教員研修を実施する。 (専門家派遣については、立教大学、IGS等の教育関係機関から内諾を得ている。 また県環境ふれあい課の支援の下、人選を進めている。調査研究については、東レ、栗田工業等の関連企業の協力依頼を得ている。海外との提携先については県地域外交課を通じて、シンガポール市内のハイスクールやシンガポール大学との連携を視野に入れている。)</p> <p>②事業の検証・評価 新たな評価手法による生徒の資質能力向上の確認及び生徒・教職員・関係機関に対するアンケートや卒業後の進路先調査等によって行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 ・平成 26 年度については特になし。平成 27 年度以後の実施に向けて「羅針盤」の活用と共に、必履修科目（「現代社会」、「情報」）の減単、あるいは必履修科目に代わる学校設定教科の設置。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 (内容) 観点別評価を取り入れ、テストだけによらない評価方法について、課題研究の成果を生かし他教科でも開発する。 (実施方法) 主に教員研修、授業参観を通じて意思を統一し客観的な指標を作成する。 (検証評価) 教員アンケート、生徒アンケート、学校関係者評価によって検証する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダーの育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法 ・英語ディベート大会への参加 ・異文化理解講座・日本文化体験講座の開催 ・海外進学・留学情報の提供 ・海外修学旅行と事前研修 ・姉妹校 中国浙江省杭州市高校生との交流事業 ・同窓会、後援会、三島市国際交流協会等と連携した海外短期留学支援の拡充 ・英語版 HP の作成と更新 ・各種関係機関からの留学生受け入れに積極的な対応</p> <p>(4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入）</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		

※問題基盤型学習

講義型の授業に対し、少人数のグループで、提示された課題に対し、自分たちで問題を見つけ出し、互いに議論しながら自己学習を行う。ハーバード大学をはじめ世界の革新的な大学が導入し、急速に普及している。

ふりがな	しずおかけんりつしみきたこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	静岡県立三島北高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(29年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	200人
	SGH対象生徒以外:	8人	4人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 授業改善の考え方が学年進行で進み、研究開始4年後で意欲・関心を持つ生徒が全校の25%を占めることが目標。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:	8人	6人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 短期留学の潜在的な希望はあるが、費用の問題で簡単ではない。1,2年生の1割が参加することを目標とする。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:	50%	50%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 留学意識に基づき推計ではあるが卒業生の大学在学中の留学意識は高い。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 積極的な活動を支援するが、数値目標は2年合計で7%以上とする。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:	20%	20%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 英語以外の授業での英語使用頻度が高まれば、自然と英語力が高まると考えられる。									
(その他本構想における取組の達成目標)意欲的に主体的な学習に取り組む生徒の割合。									
f	SGH対象生徒:								600人
	SGH対象生徒以外:	200人	200人						
目標設定の考え方: 反転学習の手法による問題基盤型学習の成果で主体的で行動力のある生徒が主流になると考えられる。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(31年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:		20%	20%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 主体的な学習により、学力が付き、意欲も増し、国際化重点大学への進学率が高まると考えられる。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 治安、経済的な理由から海外大学への進学意欲は少ないが、研究の結果、先輩からの情報によって意欲を持つ生徒が増加すると考えられる。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 3年間の課題研究の成果で、完成年度以後の卒業生には確実に影響があると考えられる。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: これまでも10名前後が短期も含めて海外で研修しているがSGHの結果、飛躍的に増えると考えられる。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(29年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	0人	0人	人	人	人	人	人	300人
	目標設定の考え方: 2年目までは海外活動は課外活動が中心である。3年目以後に修学旅行で海外研修を行う。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	0人	0人	人	人	人	人	人	840人
	目標設定の考え方: 初年度は課外活動が中心。2年目以降学年進行で課題研究に携わる。3年生は文化祭まで学年体制である。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	0校	0校	校	校	校	校	校	5校
	目標設定の考え方: 初年度は高校1、大学1で開始。毎年、協力校を1校ずつ拡充していく。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0人	0人	人	人	人	人	人	100人
	目標設定の考え方: 初年度は課外活動と教員が中心。2年目以降は学年進行となり、教員、大学教員、学生と協力して課題研究を行う。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0人	0人	人	人	人	人	人	50人
	目標設定の考え方: 企業との探求、体験活動を軸とするため複数回の研修機会が想定される。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	0人	0人	人	人	人	人	人	20人
	目標設定の考え方: 英語ディベート大会、スピーチコンテスト、日本水フォーラムや国連機関主催事業への参加が見込まれる。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	12人	2人	人	人	人	人	人	20人
	目標設定の考え方: 2年生まで各クラス1名の長期留学生の受け入れが可能である。短期ならばそれ以上が可能である。							
h	先進校としての研究発表回数							
	0回	0回	回	回	回	回	回	2回
	目標設定の考え方: 毎年の県内対象と隔年の県外を含めた研究発表会を実施する。視察は随時受け入れる。							
i	外国語によるホームページの整備状況							
	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	×						○
	目標設定の考え方: 平成26年度中に完成させ、随時更新する。							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方:							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	843	844	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							